

本学の被服構成（和裁）受講生の意識調査

Transition of student's attitude in Clothing Organization (Japanese dressmaking)

古 幡 充 代*・石 野 美 樹

I 緒 言

本学が家政科から生活科学科（生活情報コース・生活科学専攻・栄養士コース）と名称が変更され、必修科目が選択科目（但し教職履修者は必修）となったのを機会に、学生の意識を調査し、把握することにより、今後の指導の一助とすることは、意義あることと考え、この調査を実施した。

ちなみに、被服講成（和裁）の講義内容は次のとおりである。

- ・和服の特徴を理解し基礎的技法を学ぶ。
- ・大裁ひとえ長着(ゆかた)の女物・男物を製作実習することにより、きものへの知識と技術を身につける。
- ・仕立てたきものを自分で着装する。

II 調査方法

1991年4月入学の学生で、被服構成（和裁）を選択した学生を対象とし、調査項目(1)~(6)については、入学時第1週の授業時に、さらに(7)~(9)については、1年次の最終講義時に、アンケート形式により回答（一部複数回答・無記名）を求めた。

III 調査事項

(1) 被服構成（和裁）を選択した主な理由2つを選びなさい。

- ・きものに興味があったから。
- ・きものが好きで、いつかきものを縫ってみた

いと思っていたから。

- ・洋裁は何とかできるから、和裁を学びたかった。
- ・和裁を学ぶ機会が少ないから。
- ・きものに関する知識を得たかったから。
- ・被服全般が「にがて」だから。
- ・将来何かの役にたつと思ったから。
- ・特別の理由なく、何となく。

(2) 中学校・高等学校での被服に関する実習状況について、各校3年間の被服の実習、製作品名についての調査。

(3) ものごころついて今までに、きものを着たことの有無、またどのようなとき着用したかについて。

(4) 家族のなかで、きものを着るひとがいるか、それはどのようなときか。

(5) あなたは、ミシンが使用できるか、運針はできるか。

(6) 短期大学での、被服構成（和裁）の授業に、希望し、期待することは何か。

(7) 女ものゆかたを縫い、着装した感想。

(8) 男ものゆかたを縫った感想。

(9) 女もの・男ものときものを仕上げた感想で、特に強く感じたことを2つ選びなさい。

- ・きもの構成、名称、しきたり、歴史などが解った。
- ・運針(手縫い)、くけ方、留め方など技法を知ることができた。
- ・きものを完成するためには、根気と努力が必要と思った。

* 帝京短期大学非常勤講師

- ・きものを縫うことは大変で、もう二度とやりたくない。
- ・また機会があれば、縫ってみたいと思った。
- ・その他感じたこと…。

IV 調査結果及び考察

(1) 被服構成（和裁）を選択した主な理由

表(1)

和裁を学ぶ機会が少ないから。	160名	29.9%
将来何かの役にたつと思うから。	100名	18.7%
被服全般が『にがて』だから勉強したい。	67名	12.5%
きものに興味があったから。	60名	11.2%
和裁に関する知識を得たい。	59名	11.0%
きものが好きで、きものを縫ってみたかったから。	45名	8.4%
特別の理由なく、何となく。	25名	4.7%
洋裁は何とかできるから、和裁を学びたい。	19名	3.6%

8項目のうち、和裁を学ぶ機会が少ないからが、選択の主な理由として約30%と多く、次に将来何かの役に立つだろうという漠然とした考え方が伺える。その反面、興味がある、知識を得たい、きものが好きという、余り抵抗なく選択した傾向が伺える。また被服全般が『にがて』と、自分で決めつけてしまって、不器用と思いこんでいる状態が意外に多いことは、実際に指導してみると、習得が早く仕上げも綺麗で、そのような感じは全くなくただ本人が思い込んでいる場合も多いので、自信をもつような指導が必要と思う。

(2) 中学校・高等学校での被服に関する実習状況について、各3年間の実習、製作品名 中学校3年間

表(2)－1

学年	内 容	人 数	%
中 1	スモック	160名	53.7
	エプロン	37名	12.4
	パジャマ	5名	1.7
	その他	14名	4.4
	実習なし	98名	32.9
中 2	スカート	199名	66.8
	パジャマ	22名	7.4
	スモック	18名	6.0
	その他	15名	5.0
	実習なし	52名	17.4
中 3	パジャマ	232名	77.9
	スカート	24名	8.1
	その他	20名	6.7
	実習なし	37名	12.0

高等学校3年間

表(2)－2

学年	内 容	人 数	%
高 1	スカート	64名	21.5
	ブラウス	18名	6.0
	その他のスカート	16名	5.4
	ワンピース	9名	3.0
	セーター・編み物	5名	1.7
	その他	33名	11.0
	実習なし	155名	52.0
高 2	スカート	56名	18.8
	ブラウス	15名	5.0
	ゆかた	9名	3.0
	ワンピース	5名	1.7
	その他	46名	15.4
	実習なし	158名	53.0
高 3	ブラウス	3名	1.0
	その他	35名	11.7
	実習なし	262名	87.9

中学校家庭系列領域の被服では、1年で作業着の製作（スモック）2年で日常着の製作（スカート）3年で休養着（パジャマ）手芸品の製作（ししゅう・編み物・染色）となっているが、中学校はこの基準にそった実習がなされている。その他の内容は殆ど手芸が多く、何も実習製作品がない場合は、理論だけか、食物・保育学習及び実習が行われている。いずれにしても中学校では、実習、製作品の学習指導がきちんと実施されている。担当家庭科教諭に敬意を表したい。

高等学校は、家庭一般及び被服1・2・3を学習しており、各人の実習状況の差は非常に大きく、さらに進学コースの場合、3年間何も実習していないという回答もあり、中学校よりは高等学校で、被服学習及び実習の機会は少なくなって、その後大きく影響しているのではないと思われる。

(3) ものごころついて今までに、きものを着たことの有無、それはどのようなとき着たか。

表(3)

着用した	282名	94.6%	
着用しない	16名	5.4%	
着用した行事	七五三	227名	76.2%
	盆	158名	53.0%
	正月	119名	39.9%
	祭り	111名	37.2%
	花火大会	53名	17.8%
	文化祭・体育祭	34名	11.4%
	稽古ごと	18名	6.1%
	祝いごと・パーティ	15名	5.1%
その他	7名	2.3%	

きものを着たことがある282名 無い16名で、一般に幼い頃の記憶として鮮明で、中でも七五三が多いのは、日本経済の最盛期と共に成長した年代の象徴といえよう。我が子の成長を七五三の祝着にたくした親心が伺える、ちなみに1970年～1978年の調査で、きものを着たことがあるが、95%とほぼ同じ結果がみられる。文化

祭・体育祭でのきものは、仮装行列のたぐいか、民謡などの踊りでの着用と思われるが、仮装できものを着るという、特別な扱い方も考えさせられる。

(4) 家族のなかで、きものを着るひとがいるか、それはどのようなときか。

表(4)

家族	祖父母	39.6%	いつ着るか	冠婚葬祭	46.6%
	母	37.0%		入学卒業式	21.0%
	父	4.3%		日常着	13.9%
	姉	3.3%		休養着	8.3%
	兄	0.3%		その他	10.1%
	その他	15.5%			

学生の家庭環境の中で、きもの着用状況を調査してみると、予想通り日常着として殆ど用いられていない。母・祖父母が特別の時に和服を着ている。特別なときとは、冠婚葬祭、儀式用で主に礼装用として着用されている。成人式、謝恩会、結婚式等には、依然として振り袖、花嫁の和装も多いことは、若い女性が一種のあこがれをきものに持ち続けている状態と思える。

(5) あなたは、ミシンが使用できるか、運針ができるか。

表(5)

ミシンの使用	できる	120名	40%
	少しできる	160名	54%
	できない	18名	6%
運針は	できる	25名	8%
	少しできる	167名	56%
	できない	106名	36%

この設問については多少の危惧を抱き、正直に回答してもらえるか不安であったが、表で解るように、ミシンも運針も少し出来るの項目は殆ど同じ状態である。しかし、出来る、出来ないは、ミシンと手縫いは全く逆で、手縫いが出来ないとの回答が多い。現在も、自信を持ってミシンの使用が出来ないとの回答もあり、その原因もいろいろ

考えられるが、家庭でミシン使用の機会が少なくなったこと、既製品が手頃な価格で入手できること、手作りによる縫製が少なく、なかにはミシンがない家庭もある。またミシンの性能が多岐になり、より高度の性能をもつため、いったん故障すると修理が困難で、専門家に依頼することになり、ミシンそのものを十分に生かして使用する技術が貧困なため、折角のミシンが死蔵されてしまうと考えられる。ミシンは単純な機能の方が、一般家庭用として充分利用効果はあがるし、故障も少なく、修理も簡単である。一家に一台の必需品として、手作り、リフォームに、創作の楽しみを、ものの豊かな時代の中でも生かしてゆけるような指導も考えなければならぬと思われる。

一方手縫いは、少しできる、手縫いはできないを合わせると92%と殆ど運針はできない、しかし日常生活でなんらかの型で針をもつことは欠かさないし、運針も自己流でこなしていると思われる。基礎的技法として、完全に初歩から訓練することで、学生は意外に早く会得できる。指抜きを使用して正確な運針はすぐに上達出来るようになる。一針一針縫うことは、めんどうだと考えることを、手早く手縫いが出来ることは楽しいと考えるように意識を変えてゆくように指導することが大切と思われる。

(6) 短期大学での被服構成(和裁)の授業に希望し期待することは何か。

表(6)

・進度はゆっくり、丁寧に指導してほしい。	54名	34.6%
・着付け、帯結びを習いたい。	32名	20.5%
・にがて意識を無くしたい。	18名	11.5%
・知識、マナーを身につけたい。	16名	10.3%
・手縫いの基礎を学びたい。	14名	9.0%
・宿題は出さないでほしい。	8名	5.1%
・自分の力で完成するか心配。	4名	2.6%
・その他	10名	6.4%

具体的な表現で回答したものが、156名で、進度をゆっくり、丁寧に指導してほしいという希望は、被服実習は大変というイメージをすでに始業時に持っていることが解り、そのことが自分の力で完成するか心配と記している。社会の多様化に従い学生も、この時期に学びたいこと、身につけたいことが多く、非常に忙しいと考えられるが、実習の内容をよく理解し、手早く、綺麗な仕上がり、できる能力を身につけるよう指導してゆく必要を感じず。中学・高校での指導の中で技術的指導を期待するのは少々無理な現状であることをふまえて、従来のゆかたの縫い方をはじめ、被服構成の内容も含め、何をどのように指導することが、学生に興味を持たせ、魅力ある講義内容とすることが出来るかの問題に、必然的に到達する。

(7) 女ものゆかたを着た感想はどのようなことですか。

表(7)

・自分の製作したきものを着て感動し、嬉しく思った。	112名	48.1%
・女らしい新鮮な気分を味わった。	53名	22.7%
・何かきこちなく、きゅうくつで疲れた。	43名	18.5%
・その他	25名	10.7%

出来上がったゆかたを自分で着て、帯結びが出来るということは、ただゆかたが縫い上がれば良いのではなく、それと着付けができることを最終の目標とした。着付けについては、あらかじめ着付のための小物類(帯・紐・帯板・伊達鉈め・下駄)等を各自準備し、学校備品も使用して、全員が着付けをした。自分の手で仕上げたゆかたに、欲びと感動を体験し、女らしさという表現を新鮮な気分、今までにない自分を発見したとの回答が、70%をしめている。またきゅうくつで疲れた、歩きにくい、着くずれが心配ということは、着馴れていない一時的なもので、くり返し着用す

ることで解消される。着付指導に時間をかけてきものを着た時の立ち居ふるまい、歩き方なども含めた指導が大切と思われる。

この項目の設問は夏休み中に、ゆかたを着てほしい希いがあり、少しでもきものに親しんで着る機会を多く持ってほしいと期待した。また家族は、あなたのきもの姿をみて何と批評したか、よく出来た、よく努力したとほめられた。中には、Beautiful, Pretty!! と家族の激励をうけている。何も言われなかったとの回答もあり、家族の無関心が残念である。こうした時こそ、お互いのコミュニケーションが望まれる。ワンピースを着る感覚でらくにゆかたを着ることが出来るために、着付には充分時間をかけることが必要であろう。

(8) 男ものゆかたを仕上げた感想

表(8)

・女ものゆかたと、男ものゆかたと、どちらが、むずかしく感じたか。		
女ものゆかた	162名	69.5%
男ものゆかた	71名	30.5%
・男ものゆかたで、むずかしいと思った箇所はどこか。		
えりつけ	69名	29.6%
あげのしまつ	66名	28.3%
そでつけ	25名	10.7%
居しきあて	17名	7.3%
その他	56名	24.0%
・男ものゆかたを仕上げたの感想		
進度が速くて疲れた。	101名	43.3%
思ったよりやさしかった。	77名	33.0%
余裕があり、楽しかった。	26名	11.2%
着る人がいないので張り合いがなかった。	18名	7.7%
やはり大変だった。	13名	5.5%

予想通り初めての女ものゆかたの方が、むずかしかったと回答している。むずかしく感じた箇所は、女もの、男もの共通して衿つけであり、その他は女ものには無い箇所があげられている。何事

にも共通することであるが、一つ一つ積み重ねてゆくこと、繰り返し丁寧な指導が必要と思う。そのことが男ものを仕上げた感想のなかの、女ものの経験が生かされ役立って、思ったよりやさしかったという感想にみられる。また自分が着装できるものには興味を持つが、他のものは余り興味をしめさず、男ものは張りあいが無い、という考え方になるのではなく、男ものと女ものとの相違点を充分理解し学ぶ意義を知らせることが大切と思うが、目的のない学習、実習がそのやる気に影響することも考慮に入れて、教材の選択を行う必要も感じる。

(9) 女もの、男ものゆかたを仕上げた感想

表(9)

・運針など手縫いの技法を知ることができた。	127名	36.7%
・きものを仕上げるための、根気と努力を体験した。	74名	21.4%
・きものの構成、名称、しきたり、民族服としての歴史など理解できた。	53名	15.3%
・機会があれば、また縫ってみたい、興味を持った。	45名	13.0%
・きものは難しくて縫いたくない。	41名	11.8%
・その他	6名	1.7%

きものを縫うことを通して、各自が様々な思いを抱いて1年間を過ごしたことが伺える。ただ仕上げれば良いのではなく、きものを縫うことによって、何を思い何を感じたかは、指導者として一番知りたいことである。仕立ての技術や理論のほかに、学生は何を得てくれたのであろうか。

手縫いの技法については、特に縫うこと、くけること、縫いはじめと縫いおわりの糸のしまつと留め方について指導するなかで、しまつをしっかりすること、どこから見ても、美しく出来上がるように特に注意して指導した。短大入学までに実習する機会が少ない現状を考えれば、技術面は益々低下するのは、やむをえないと思われるが、この時期の習得は、一面理解度も高く、早いので

一度身につけたことは、今後充分役立ててゆく能力も期待できる。きものはどの様な手順でできあがっていくのかその過程が全く解らない状態のなかで、一つのを仕上げる困難と不安をもつ学生に、そのプロセスを前もってよく理解する様にしてゆかなければならない。極端に言えば、今何をしているのか、それがどの部分であるか、なぜこの様にする必要があるのか、今までより更に一層、考慮する必要がある。

V むすび

短期大学2ヶ年間の教育の中で、被服構成（和裁）をいかに位置づけてゆくか。ここで改めて考えると、被服、調理、育児といった生活技術から、生活科学の研究の場へと変行され、良き家庭人の育成から、優れた社会人の輩出へ、時代の変化に則した当然の流れと言えよう。

1991年、日本家政学会も『家政学における大学教育充実のための指針』を出し『家政学の内容にも大きな変革が迫られている。』と強調し、『家庭内の生活技術の研究にとどまらず、広く人間生活そのものを研究対象とし（中略）総合的な学問体系の確立』をアピールした。

この傾向は、いきおいカリキュラムの中から、実技、実習を減らすなど新たな方向を探っている。こうした状況のなかで、被服構成を考えると実習重視の傾向はいずれ、軌道修正がなされることは確実と思われる。一方受講学生が本学への入学前の、家庭科の履修状況にどのように対処してゆくか考えなければならぬことは当然といえよう。

きものが、日常着から礼装用、儀礼用として用いられてきている一方で、新しい感覚で見直されてきていることも事実である。近ごろの夏の風物詩としてのゆかたの色彩、柄一つをとってみても、大きな変化が感じられる。例えば、紺地にベージュのローマ字でブランド名を大きく染め出してあ

るものや、デザイナーズ・ブランドがゆかたを創りだしていることから伺える。学生が選ぶゆかたの色彩・柄にもそのことは充分伺い知ることができる。ワンピース一枚、新調する価格でゆかたが着られる手軽さがうけて、『この夏あなたは、女らしく生まれ変わる。』とマスコミもはやしたて、夏の夜のパフォーマンスがくりひろげられる、このことは、ゆかたが着られる機会が多くなったと、喜ぶべき現象ともいえよう。そこでこれを一つの機会ととらえ、被服構成（和裁）をより親しみやすく、身近なものにするために、一つの試みとして次のことを考えるのである。

従来、きものの良さは直線裁ち、仕立て直しが効くことにあった。布地はつなぎあわせれば再びもとの一枚の布地になる。即ち縫い代は全部縫いこめられて、細かい裁ち落とし布が出ないことにあったが、この際、縫い直すことにこだわらないで、縫い代のしまつは、より単純に簡単に出来る方法を考えるべきと思う。縫い直し、ほどきやすくするための手縫いではなく、洗濯にもクリーニング等にも対応して縫い代のしまつがなされる必要があるであろう。直線縫いはミシンを併用して、手縫い、ミシン縫い whichever でも良いと思う。NHKの初心者向けのゆかたの縫い方などの講座によっても解るが、先人の教えをふまえて、きものが特別のもの、むずかしいものというイメージから興味を持てるよう移行させることが必要と思う。布の構成、形式は現状のままで、まず縫い方を見直してゆくことが第一と思う。更に直線裁ちの特徴を生かした上で、型紙の使用等、今後の問題としてとらえてゆきたい。

生活者の立場にたったモノ作りのできる技術は、最低身につけて欲しいと希うが、この時もっとも大切なことは、実際に体験して学ぶことである。